



小松島MNG III号外版

プロスポーツ

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE



昨年の7月に佐世保競輪場で開催された競輪界初のミッドナイトG3。第2弾「ワインチケットミッドナイトG3」が2月17日～19日の日程で、小松島競輪場に於いて開催される。人気を集めるのはグランドスラマー、新田祐大だろうが、実力互角でひと筋縄ではいきそうにない。スピードなら引けを取らない中川誠一郎をはじめ、鈴木竜士、森田一郎の埼京勢も侮れない。島川将貴、太田竜馬の地元勢も虎視眈々とVを睨む。

全日本選抜直前の開催のためトップクラスは少ない。そんな中、グランドスラマー・新田祐大の実績はひとつわ光る。昨年はサマーナイトフェスティバル①①③着、8月松山G3で4連勝を飾るなど、G戦線で存在感を示していく。直近4カ月の競走得点は今節トップ。不安材料があるとすれば、ここが今年の初戦となるので、2カ月近く実戦から離れたことになる。レース勘に問題がなければ、位置取りも視野に入れた前々と攻める自力攻撃で別線を圧倒し、主役を務めるとみた。

鈴木竜士、森田一郎の埼京勢も好勝負が見込める。鈴木は自力基本の競走ながら、第25期卒記チャンプの有望株である森田との連係が叶うようなら前を任せらるか。まだS級では優勝経験がない森田だが、先行主体の競走で奮戦していく、F1戦では優参級の先行力がある。鈴木に前を任せられれば強気に攻めることが予想されるので、鈴木が展開有利に抜け出す場面は考えておきたい。

島川将貴、太田竜馬の地元同期生コンビも黙つてはいない。両者ともに自力勝負が基本だが、太田の方が仕掛けが早いし、年齢も若いので、ここは太田が前で戦うか。太田は1月松阪記念では2連対。島川も1月高松記念では1③①③着と好走していく、ともにどん底は脱した感じだ。好連係を決めれば地元コンビでの連独占もありうる。ベテラン渡部哲男が地元勢に続けばラインも強固だ。ヤンググランプリ2024の覇者である纏纏洸翔も軽視できない。成績にはやや波があるものの、1月和歌山記念では1⑧①①着と3勝をあげている。うまく流れに乗れれば一発怖い。西村光太がマークして中部ラインを形成する。

出場予定選手詳細



ウィンチケットミッドナイトG3 出場予定選手

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
S1	渡部哲男	愛媛	84期	106.83	S2	原口昌平	福岡	107期	98.43
S1	中川誠一郎	熊本	85期	106.52	S2	太田竜馬	徳島	109期	105.80
S1	松坂洋平	神奈川	89期	105.59	S2	磯川勝裕	東京	113期	93.63
S1	新田祐大	福島	90期	111.80	S2	照井拓成	岩手	115期	101.73
S1	西村光太	三重	96期	107.76	S2	坂本紘規	青森	117期	98.24
S1	久木原洋	埼玉	97期	101.22	S2	安藤直希	京都	117期	87.50
S1	高久保雄介	京都	100期	106.79	S2	土生敦弘	大阪	117期	100.65
S1	嶋津拓弥	神奈川	103期	103.25	S2	畠木聖	岡山	117期	98.42
S1	鈴木竜土	東京	107期	107.08	S2	塚本瑠羽	神奈川	119期	85.14
S1	島川将貴	徳島	109期	105.63	S2	真鍋頭汰	三重	121期	90.57
S1	林大悟	福岡	109期	103.22	S2	室井蓮太朗	徳島	121期	97.50
S1	佐藤礼文	茨城	115期	105.33	S2	坂田康季	佐賀	121期	97.40
S1	畠田宗一郎	岡山	115期	102.68	S2	森田一郎	埼玉	125期	102.67
S1	久田裕也	徳島	117期	102.10	S2	阿部英斗	福岡	125期	100.88
S1	大川剛	青森	121期	102.19	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
S1	纒綾洸翔	愛知	121期	105.33	ガールズケイリン				
S2	川口満宏	東京	58期	94.18	L1	渡辺ゆかり	山梨	102期	45.30
S2	江守昇	千葉	73期	98.79	L1	奈良岡彩子	神奈川	104期	43.17
S2	松田治之	大阪	73期	103.35	L1	石井貴子	東京	104期	51.42
S2	堤洋	徳島	75期	105.44	L1	児玉碧衣	福岡	108期	54.42
S2	西田雅志	広島	82期	101.00	L1	佐藤友香	青森	110期	47.50
S2	吉本哲郎	広島	84期	94.29	L1	荒川ひかり	茨城	110期	49.52
S2	小橋秀幸	青森	85期	94.65	L1	齊藤由紀	愛知	110期	45.25
S2	溪飛雄馬	愛媛	86期	96.88	L1	太田りゆ	埼玉	112期	57.50
S2	篠原忍	愛知	91期	93.27	L1	藤原春陽	徳島	122期	50.96
S2	山口貴弘	佐賀	92期	100.92	L1	安東莉奈	大分	122期	48.90
S2	蒔田英彦	千葉	93期	97.38	L1	松井優佳	大阪	124期	53.25
S2	杉本正隆	茨城	96期	104.81	L1	谷元音羽	鹿児島	124期	49.73
S2	磯田旭	栃木	96期	104.04	L1	伊藤優里	三重	126期	51.05
S2	棚橋勉	岡山	96期	99.33	L1	豊田美香	徳島	126期	51.86
S2	塚本大樹	熊本	96期	106.87					
S2	中田雄喜	福島	97期	100.78					
S2	高橋昇平	埼玉	99期	97.68					
S2	金子幸央	栃木	101期	105.40					
S2	谷口明正	三重	103期	94.54					

グランドスラマー・新田祐大

プロスポーツ

金子 幸央 (栃木/101期)

このところ動きがいい。1月松阪記念で1⑥⑤②着と2連対を果たすと、2月前橋は1③②着の準Vと好走した。今の調子なら上位戦でも好勝負が期待できる。



松田 治之 (大阪/73期)

51歳を迎えた大ベテランながら差し脚は相変わらずシャープだ。2月前橋では1⑥①着と2勝をあげた。しっかりした目標があるレースは連の対象から外せない。



阿部 英斗 (福岡/125期)

1月別府で9連勝を達成してS級入り。初戦の同月立川は71②着、2月小倉1④①着。立川の予選は渡邊一のまくりに屈するも、それ以外は逃げて強靭な粘り腰を発揮している。



ガールズケイリン

注目の2強対決

出場予定選手詳細

※2025年02月07日現在

		主力選手プロフィール									
九州	福岡	児玉碧衣	29	108期	126期	122期	124期	126期	104期	112期	
福岡	福岡	豊田美香	29	L1	54.42	51.86	50.96	53.25	51.05	51.42	57.50
福岡	福岡	藤原春陽	22	56.11	50.00	51.52	52.91	49.88	52.71	57.81	直近4ヶ月
福岡	福岡	松井優佳	25	55.33	53.33	51.78	53.11	50.50	51.33	56.22	前月得点
福岡	福岡	伊藤優里	20	110	110	110	110	110	110	110	今期得点
福岡	福岡	石井貴子	36	110	110	110	110	110	110	110	BS HS 打S
福岡	福岡	太田りゆ	30	110	110	110	110	110	110	110	
		選手能力値									
		●機動力									
		●ダッシュ									
		●差し脚									
		●デンジャー									
		●実績									
		●ボテンシャル									
		選手別勝利数									
		上連対									
		逃									
		直									
		下着									
		12場所勝利数									
		1着									
		2着									
		3着									
		他									
		直近12場所成績									



児玉碧衣

ミッドナイトG3はガールズ戦でも注目のマッチアップが実現する。児玉碧衣と太田りゆ。両者の過去の対戦成績では児玉が大きくなり。しているが、これまでほぼビッグレースに限られてきた。2強対決ムードの中でどういう決着が見られるかは大変興味深い。現状では太田がややリードか。ナショナルチームを卒業して競輪に専念するようになった太田は各地でスピードの違いを披露。8月以降は8回の完全優勝を飾っている。ここ2場所はVを逃していると言つても、敗因は明確で調子の問題ではない。違反点で組み立てが制約される点は、長い距離を踏まされてもいいようにと対策も進んでいて展開に左右されない強さも身に付けてきた。勝負所で迷わず仕掛けでライバルをねじ伏せる。

ここまで何度も体調を崩したのは初めて、と昨年はG1のオールガールズを制する一方で苦しい一年を過ごした児玉。グランプリで受けた声援を励みに一步ずつ好調時の感触を取り戻す

競輪に専念するようになつた太田は各地でスピードの違いを披露。8月以降は8回の完全優勝を飾っている。ここ2場所はVを逃していると言つても、敗因は明確で調子の問題ではない。違反点で組み立てが制約される点は、長い距離を踏まされてもいいようにと対策も進んでいて展開に左右されない強さも身に付けてきた。勝負所で迷わず仕掛けでライバルをねじ伏せる。

ここまで何度も体調を崩したのは初めて、と昨年はG1のオールガールズを制する一方で苦しい一年を過ごした児玉。グランプリで受けた声援を励みに一步ずつ好調時の感触を取り戻す

競輪に専念するようになつた太田は各地でスピードの違いを披露。8月以降は8回の完全優勝を飾っている。ここ2場所はVを逃していると言つても、敗因は明確で調子の問題ではない。違反点で組み立てが制約される点は、長い距離を踏まされてもいいようにと対策も進んでいて展開に左右されない強さも身に付けてきた。勝負所で迷わず仕掛けでライバルをねじ伏せる。



太田りゆ

優勝は昨年5月岸和田の1回だけの松井優佳ながら、自力自在に戦で常にV争いに加わっている。太田と仲澤春香の激突に沸いた1月大宮の決勝も自力は出す余地はなかつたが、太田のまくりを追つて3着。さらに立ち回りの精度を上げられれば怖い存在と化す。

藤原春陽、豊田美香の地元コンビも決してノーマークにはできない。藤原は決勝の常連でレース運びが安定しているし、豊田は自力攻撃に鋭さを増していつている。タイプは違うが隙を突いての一発は魅力的。

徹底先行の持ち味を崩さない石井貴子がレースを動かしていきそう。相変らずペースで駆けた時の末の粘りは驚異的だ。